《川の学校をふりかえって》

今回の企画、こんなところが良かった！

▲雨中の屋形船

▲修了証を貰いました

2年ぶりで川の学校を開講できたことは、オイコスや参加を待っている子ども達には、一番「良かったこと」です。他には、以下のようなことがあげられます。

①印旛沼で屋形船に乗り、生き物や水質など体験できたこと。
②八千代から印旛沼へ行くバスの車窓から、台地・田んぼ・川を見、印旛沼へ水が流れていくことを理解出来たこと。
③内水面研究センターで、印旛沼等にすむ魚を見ることができた。
④生き物探しラリー活動を通して、生き物への関心や花輪川の周辺を知ったこと。
⑤多くの生き物がすむ水辺になるには、どうすれば良いかをグループで話し合い、皆の前で発表したこと。

今年のねらいは、オイコスが活動している花輪川⇒桑納川⇒新川⇒印旛沼と水の旅を体感し、水辺の生き物、水を大切にし、汚さないようにして流す行動へとつなぐことです。
花輪川からの水も印旛沼がきれいになる為には、重要だと改めて感じた企画でした。（企画担当　桑波田）

川の学校再開の裏話

▲印旛沼公園にて

▲生き物いるかなあ（花輪川）

▲川の中にはいりたいなあ（花輪川）

福島原発事故の影響が、この花輪川まで及ぶとは思ってもみなかった。

川に入らず、生き物にも触れず自然（花輪川）の大切さを子供たちに理解してもらうにはどうしたら良いだろうか。様々な検討を重ねて、印旛沼と花輪川を子供たちに見学してもらい、その関係を実感してもらおうということになった。

印旛沼では屋形船に乗り、魚類を研究している千葉県内水面水産研究所でお話を聞こうということになった。

問題は花輪川、水に入らずただ見ただけでは花輪川の良さを知ってもらうことはできない。花輪川と印旛沼にいる魚類を勉強しながら「生き物探しラリー」をしてみたらどうか、という意見が出た。これで何とか子供たちの興味を繋げることが出来るのではないかと、川の学校再開に踏み切ることになった。

１日目は雨であったが、船頭さんのご好意で屋形船を出してもらえた。昼食は印旛沼公園でと予定だったが、研究所のご好意で、汚さないという条件で、特別に所内の教室使用を許してもらった。

また、2日目の花輪川でも、駐車場の使用、境内でのラリーなど、今回も貞福寺様には大変なご協力を頂いた。様々な関係各所のご好意で、川の学校を再開することが出来た。お陰さまで参加児童には大変喜んで勉強してもらうことができた。各所からのご厚意とご協力に対し心より感謝申し上げます。（事務局　小原）

編集後記

今年は市内小学校の10校に「川の学校」案内チラシを、3年生以上学年別に総計5,000枚を配布しました。配布に際しては、教育委員会と、参加各校のご協力を賜りました。偏に、毎年実施している「川の学校」へのご理解を頂いている結果だと思います。今回は8校の小学校から36名の参加が有りました。学年別にみると3年生　19名、4年生5名、5年生　6名、6年生　6名で、3年生が過半数を占めていました。又　男女別では女子14名、男子22名です。父兄からはお母さんが5名参加され2日間を子供たちと一緒に楽しんで貰いました。

最近特に感じているのが、名簿を見ていると子供たちの名前の呼び方がとっても難しいのです。例えば、女子で○○子と「子」が付く名前が1人もおりません。（お母さんで1人おりました）又　男子では、○雄、○夫とか○明、○昭と云う名も有りません。名簿には全員フリガナを付けておかないと、後で子供たちから「私の名前の呼び方はこうです」とクレームを言われてしまいます。事務局が最初に苦労するのは名簿作りの様です。毎年思いもかけない「フアーストネーム」に出会えるのも楽しみの一つです。（ＴＡＮＡ－Ｈ）

発行責任者：川瀬　純一　事務局＆問合せ：小原　翔　☎：047-450-4663　mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版

川の学校特集・第24号

朝顔

平成25年9月1日発行
NPO法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/

川の学校

印旛沼と花輪川

平成25年7月29日(月)・30日(火)

▲テキスト表紙

▲みんな元気に参加しました

▲調べたことを記録しました

≪川の学校再開≫

平成２３年３月１１日、東日本を襲った大地震による津波で福島原発が壊滅的なダメージを受け、２年半にも及ぼうとしていますが放射能の惨禍は今以て安らぐどころか、地下水を侵し海への流出と留まる様子無く被害が発展しています。

２００数十㌔離れた私達の町“八千代市”においてもその影響は一部の地域に未だ暗い影をさしています。そう、その場所は川の中州に有って無念にも昨年「川の学校」の開催を中止せざる得なかった＜花輪川＞です。

市内の宅地や畑に於いては何等問題ない放射能値も毎月私達が測定する結果では花輪川の中洲にのみ基準値を若干越える数値が検出されています。

今年の「川の学校」開催にあたり、川の周辺も川の水も全く問題ない中で、子ども達の若干の時間の川中活動位なら例年通りの開催はなんとか・・・とも考えたりもしましたが、将来ある子ども達の万が一の影響も鑑み、全く新しい企画に取組みました。

オイコス事務局長以下スタッフの検討と努力を重ね子ども達にきっと素晴らしい体験を過してもらえると自負し「第７回川の学校」をご提案させて頂きました。

夏休みの２日間大いに楽しんで自由研究に役立てて欲しいと思います。　（川瀬）

≪2日間の主な内容≫

1班　6年　浅山（あさやま）　漸（ぜん）

ぼくがなぜ、川の学校に参加したかというと、印旛沼の屋形船にもそう乗れないし、内水面研究所にもそう行けないと思ったからです。

ぼくが一番心に残ったことは千葉県水産総合センター内水面水産研究所で普段は見ることが出来ない魚が見られたことです。

ぼくが見た魚の中で一番好きになったのはミヤコタナゴです。とてもめずらしい魚で、ぜつめつしそうなので、かわいそうな思いがしました。だから、沼や川を大切にしたいと思いました。

みなさんも「川の学校」に参加してみたらいかがでしょうか。

自然をもっと大切にしようと思いました。

1日目（月）

- 屋形船に乗って印旛沼見学（バスで移動）
- 沼の様子の観察と水調べ
- 千葉県立印旛沼公園にて昼食(お弁当)
- 千葉県内水面水産研究所見学
- 観察ノートの整理
- 緑が丘駅到着後解散

2日目（火）

- 緑が丘から花輪川水路見学
- 花輪川の様子の変化観察、水質調査
- 花輪川にて昼食（お弁当）
- 緑が丘公民館へ移動後ワークショップ
- 印旛沼と花輪川で気が付いたこと
- グループ発表　　・終了証の授与

1班　5年　佐々木悠陽（ささきゆうや）

二日目、八千代緑が丘駅を出発したとき、花輪川というのはふだん見る地図にはのっていないため、無いと思っていた。あったとしても遠くにあると信じていた。

だけど、意外にも住宅地をぬけたらすぐのところにあったのでおどろいた。地下水がわきでたところもあったのがびっくりした。

ラリーをして結果は五位。くやしかった。お昼ごはんはおいしかった。川ではザリガニつりもはやっていたので、やってみたかった。大きなザリガニがつれていたのでカメラでとった。

緑が丘公民館ではラリーの丸付けをした。感想も発表できた。いろいろ楽しかったからまた行きたい。

先生がた、ありがとうございました。

▲水槽で生き物の姿が良くわかります（内水面研究所）

▲屋形船は楽しかった

6班　6年　宮澤（みやざわ）　桜（さくら）

私は、川の学校に参加して心に残ったことが三つあります。

一つ目は、屋形船に初めて乗ったことです。あいにくの雨でしたが、初めて乗ったこと、鳥や魚を見られたことが、とても楽しかったです。

二つ目は、初めてザリガニをつかめたことです。ザリガニといっても赤ちゃんですが、生き物が苦手な私にとっては、とてもうれしかったです。今度は、大人のザリガニをつかんでみたいです。

三つ目は、八千代市の川の様子がわかったことです。印旛沼には、天然記念物の魚がいてびっくりしました。また、印旛沼の水は飲み水としても使われています。川をきれいにすることで、沼の水もきれいになると思いました。どうしたら川の水がきれいになるのか調べてみたいと思います。

4班　5年　仲吉（なかよし）　悠真（ゆうま）

ぼくは川の学校に行きました。川の学校では、印旛沼に行きました。屋形船に乗り進んでいると、水鳥が沢山見られ、ボラがはねるのも見えました。進んでいる時にボラが飛びはねて屋形船に入ってきました。

船の上で水をすくい水質検査を行いました。このうす緑色は植物プランクトンの色だと教わりました。印旛沼ではプランクトンが増え続けている中、コイやフナがプランクトンを食べているので環境が良く保たれている事が分かりました。

印旛沼へ流れる川、花輪川に住む生物探しラリーをしました。オニヤンマのヤゴやメダカなどがいる事が分かりました。オイコスの皆さんが花輪川に水草を植えたり、検査を行っているのが分かりました。川の学校に参加して外来魚が生態系をこわす魚だと分かりました。楽しく勉強できました。有難う御座いました。

3班　6年　堀脇（ほりわき）　海愛（かいあ）

2013年川の学校に参加しました。

川の学校では印旛沼と花輪川に関する事をいろいろと調べました。

印旛沼では屋形船に乗り、植物や生き物を観察し、印旛沼の水質を自分たちで調べました。

屋形船から見える生き物で、よく見られるのはサギという鳥でした。特徴は全体的に白く、足とくちばしの先が黒いところです。

その他にも印旛沼には鳥が年間72種類程度見られるそうです。また現在、印旛沼で見られる水草は、ヨシ・マコモ・ヒメガマ・オニビシ、この4種類だそうです。

2日間と短い期間でしたが、屋形船に乗れたりオニビシを実際に触れたりいろんな体験をさせてもらいました。　夏休みの自由研究にもピッタリだと思いました。

来年も参加したいと思います。

2班　6年　内藤楽弥（ないとうらくみ）

私は、オイコスの「川の学校」に参加して、思ったことがあります。

それは印旛沼です。印旛沼を見に行った時、たくさんのゴミが捨てられていました。マックのゴミや、ペットボトル、空きかんなどが捨てられていました。ゴミが捨てられていると、沼が汚くなったり、沼のまわりも汚くなると思います。だから、ゴミを沼や川に捨てない方がいいと思いました。だけど、そんな中でも生きていける魚達が、すごいと思います。

あと、印旛沼の魚達を研究している人達がいたことを知りませんでした。でも、その人達が研究していることで、印旛沼の魚達が、住みやすいかん境になっていくんだなと思いました。印旛沼をきれいにしていくために活動している、オイコスの人達、内水面研究所の人達、そして魚達がたくさんわかった二日間でした。

私も小さな事でも協力したいです。

▲屋形船の中

5班　6年　松澤（まつざわ）　実紅（みく）

私は川の学校へ行って、初めて知ったことが、二つあります。

まず一つ目は、印旛沼で初めて、屋形船に乗って、西印旛沼を周っている時に、屋形船のガイドさん（おとめさん）が、「カワセミとあば（漁師さんの網のうき）と、どっちの方が重いでしょうか？」という問題を出した時、私は絶対にカワセミだ!!と思ったけど、結果はあばでした。カワセミとあばの重さの差が9グラムでした。とってもびっくりしました。

二つ目は、花輪川でラリーをしたことです。いろいろな生き物が花輪川にいるということを初めて知りました。

川の学校へ行って、たくさんのことを学びました。ほかにも、外来種が日本の川にやってきているので、日本の生き物が少なくなってきていることも知りました。

今、自分で飼っている生き物も、しっかりと、最後まで飼うようにして下さい。

いろいろな生き物や、外来種の事などがわかりました。

川の学校、参加して良かったなぁ。

▲水草のサギ

ラリーNO4→

▲ラリーのテキスト

▲花輪川上流を歩く

川の学校 ふりかえり

花輪川と印旛沼の見学で気がついたこと

☆花輪川の水は桑納川・新川・印旛沼へと流れていきます。川や沼に生き物がすめるようになるためには、どうすればよいでしょう？
各班でまとめて発表しました。

【1班】
- 水草を育てる
- 水を汚さない
- ゴミを捨てない⇒ゴミを捨てないようにポスターを作る

【2班】
- 節水する
- 外来種を入れない
- 水草を育てる

【3班】
- 汚れたものを流さない
- 生態系をこわさない（今までいた生き物が、外来種が入ってきてすめなくならないように）
- 水草をふやす

【4班】
- 立て看板を作る
- 砂等を入れる
- 水をきれいにする濾過機を入れる
- 水草をふやす

【5班】
- 小石を入れてすみかを作る
- 家庭から汚れた水を流さない
- 水草をふやす

【6班】
- 魚のかくれがを作る
- 魚の通り道を作る
- ゴミをひろう、捨てない